

今後の水需要予測に伴う水資源開発の見直しについて(案)

1 水資源開発に係る方針

(1) 水需要予測 (水道部経営・事業等評価委員会水需要部会で9月1日発表)

- ・府営水道の将来水需要予測(H32) 168万 m^3 /日(1日最大給水量:H32上位値)
- ・府営水道の水源確保量(H32) 187万 m^3 /日(10年に1度の渇水に対応する
利水安全度考慮後)
149万(1日平均給水量:H32上位値)÷0.8

数値は平成21年9月1日「水道部経営・事業等評価委員会水需要部会」にて議論予定の水道部案



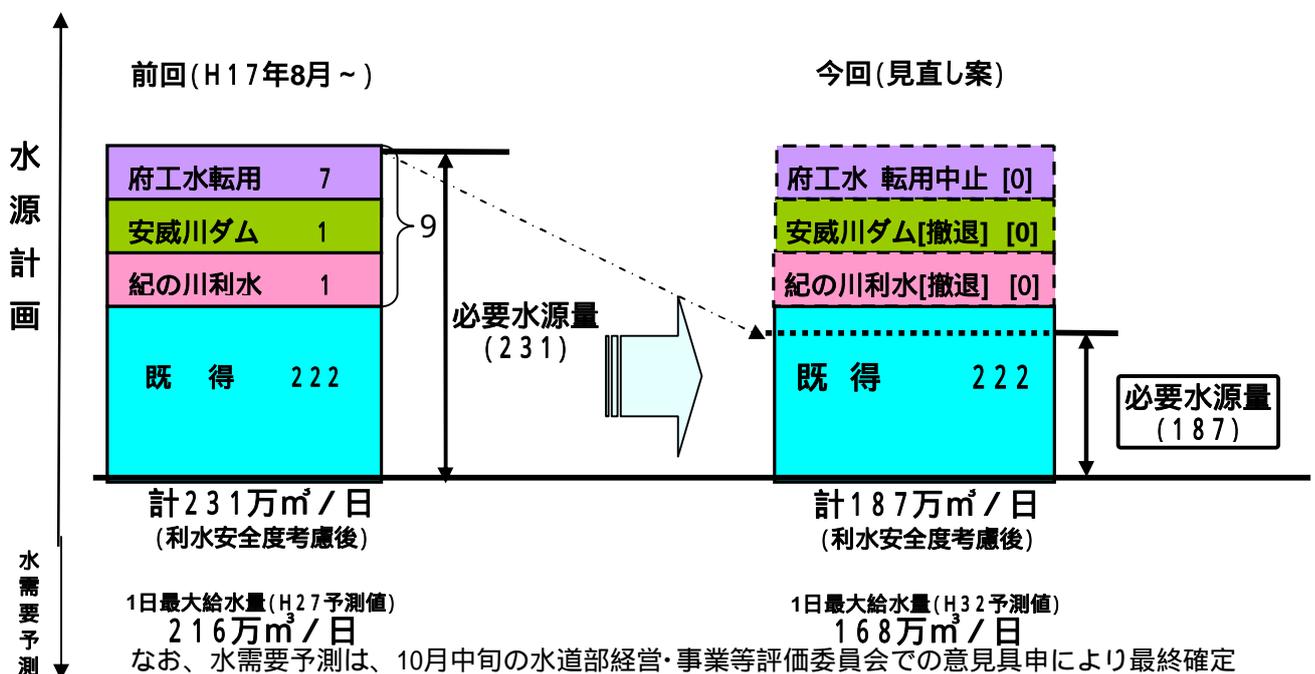
淀川水系からの既得水源量(222万 m^3 /日)を大きく下回ることとなる。

(2) 水資源開発に係る方針

水需要予測の見直しに伴い、既得水源量内での供給が可能となることから、開発中の安威川ダム及び紀の川大堰事業から利水撤退。府工水転用は中止。これにより、淀川一川による水源体制となるため、地震・事故等の十分な危機管理対応策を講じる。

危機管理体制の充実

- ・震災時にも日常生活や社会経済活動の維持に必要な水量が供給可能となるよう、段階的に施設更新・耐震化を推進



2 今回の見直しに伴う安威川ダムへの対応

安威川ダムは、治水ダムとして継続し、治水効果を早期発現させる。
これまでの地元との約束（具体的には次の3点）を最大限尊重することを基本方針とする。

治水効果を遅らせない

生活再建を遅らせない

地域整備を計画通り進める

具体的なダム事業の進め方については、事業の効果、スケジュール、費用等の観点から次の2つの対応案

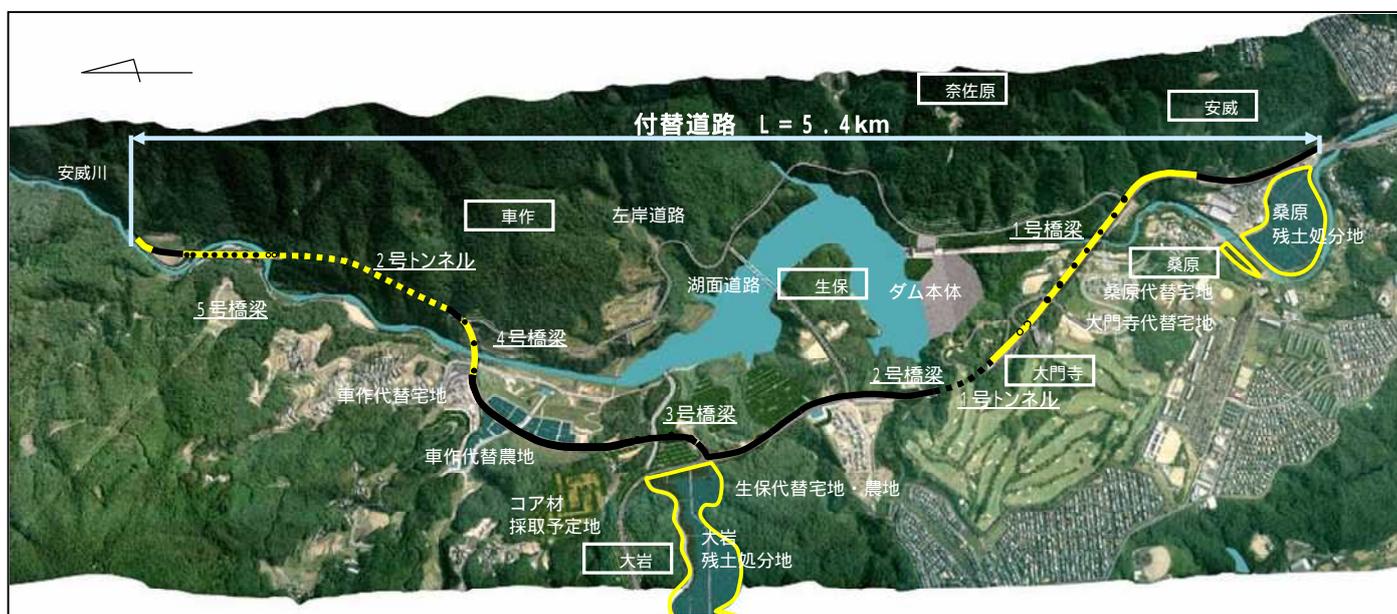
(1) ダム規模を現状維持し、事業を進める。

(2) ダム規模を縮小し、事業を進める。

について、建設事業評価委員会及び河川整備委員会での意見を聞き判断する。

【安威川ダムの概要】

- ・ **建設の目的** : 洪水調節、流水の正常な機能の維持、水道用水の供給を行う。
- ・ **事業主体** : 大阪府、大阪府営水道
- ・ **所在地** : 大阪府茨木市大門寺、生保、安威
- ・ **規模** : 堤高 76.5 m
- ・ **型式** : 中央コア型ロックフィルダム
- ・ **総貯水量** : 1,800万 m^3 (うち水道容量: 100万 m^3)
- ・ **事業費** : 約1,370億円
- ・ **工期** : 昭和63年度から平成28年度



(基盤整備の凡例)

■ (施工済)

■ (施工中及び今年度から着手予定)